

横浜国立大学大学院 副専攻プログラム

地域創造科目 履修案内 2012



● YOKOHAMA

オリエンテーション
4/10 (火) 昼休み
建築学棟 (N5-3) 1F 大会議室

■ 問合せ・連絡先
横浜国立大学 地域実践教育研究センター
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
TEL&FAX : 045-339-3579
E-mail : chiki-ct@ynu.ac.jp
URL : <http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>



複雑で解決困難な地域課題を題材に
各専門分野の **活かし方を発見し 開拓する** プログラム

横浜国立大学 地域実践教育研究センター
YNU Global-Local Education and Research Center

『地域創造科目』の概要

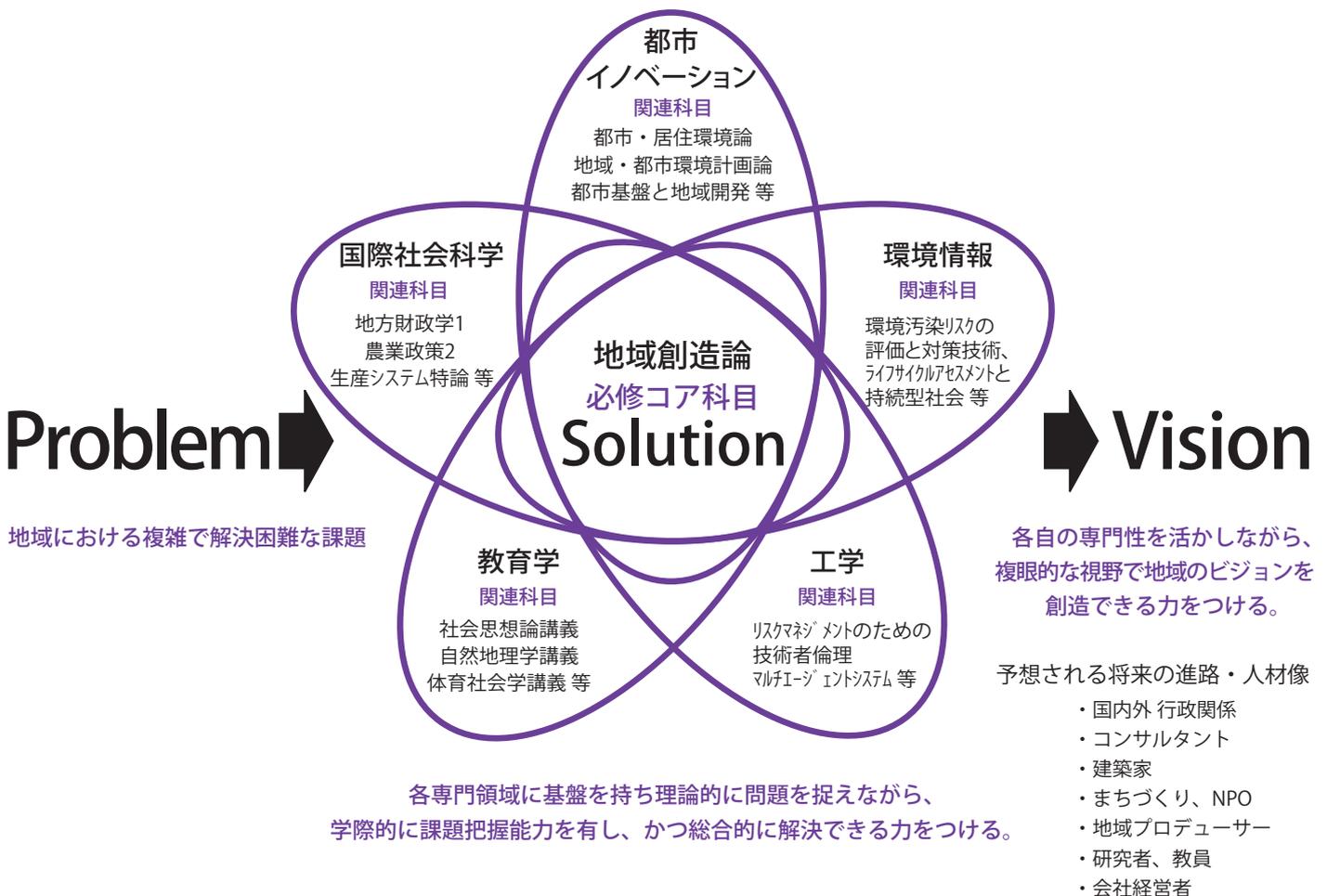
1.全体概念

現代社会において、経済格差や教育格差の拡大、工業倫理の低下や環境問題の深刻化など、住民生活の継続や地域社会の存続に支障をきたし始めています。これらの諸課題は複雑に関連しつつ、事態を深刻化させていることから、社会、教育、工学、環境など各視点から諸課題を検討し、人々が安心して豊かな生活を営めるような地域を創造することが求められています。

本プログラムは、複雑で解決困難な地域課題に対して、各専門領域に基盤を持ち理論的に問題を捉えながらも、学際的な課題把握能力を有し、かつ総合的に解決できるような人材を育成するための高度な教育プログラムです。

*副専攻プログラムとは：

知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として、自ら所属する専攻以外の分野を系統的に学習するプログラムです。



履修・申請の流れ



「オリエンテーション」

4月10日(火) 昼休み

場所: 建築学棟 (N5-3) 1F 大会議室

地域創造科目の説明・相談を行います。履修する予定の人、
関心・質問がある人は参加してください。

その他、各情報は下記サイトに掲載される予定です。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>



「履修登録」

履修登録期間については、
各研究科・学府の学務担当窓口で
確認してください。

- ・必修コア科目「地域創造論」(秋学期開講予定)
- ・関連科目(各自が在籍する研究科・学府の開講科目)
関連科目は、p.4の一覧を確認してください。

「地域創造科目」 8単位以上

地域創造科目は修士課程の間に並行して履修をし、修了証の取得をすることが可能です。詳細は各研究科、学府の学務担当窓口で確認してください。

『地域創造科目』は、①必修コア科目「地域創造論」2単位、②「関連科目」6単位以上から成る科目で構成されています。
この科目の受講・参画により所定の8単位以上を修得すると、副専攻プログラムの修了証を取得できるとともに、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域創造)修了」と記載されます。



「修了証」 〆切: 3/8

地域創造科目の修了認定

- | | |
|-----------------|---------|
| ① 必修コア科目 | 2単位取得 |
| ② 関連科目(専門型関連科目) | 4単位以上取得 |
| ③ 関連科目(実践型関連科目) | 2単位以上取得 |

修了すると修了証の授与とともに、修了記録として成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域創造)修了」と記載されます。また、センターのHPにて修了者の紹介が掲載される予定です。修了証は自己申請により発行されるものであり、下記2~3点の提出が必要です。

- 1: 地域創造科目 修了認定申請書 → センターのHPに掲載
- 2: 成績証明書
(3: レポート等: 実践型関連科目をボランティアなどの自主活動により単位認定を受けようとする場合)

修了証の申請は、修士課程2年の修了時に限ります。

修了証 3/8 に締め切り、3月の本専攻修了時に修了証が発行されます。

必修コア科目 『地域創造論』

＊秋学期に開設予定

1. 授業の主旨

21世紀に入り先進各国では、経済低迷だけでなく教育格差や就労問題、環境問題の拡大など、地域社会の存続に支障をきたし始めている。これらの地域課題は、様々な社会科学あるいは自然科学的な要因が複雑に重なり合い極めて解決困難なものである。このような複雑で解決困難な地域課題について、国際社会、教育、環境、工学、都市など高度な専門性を活かし解決に結びつける方法を学ぶとともに、実践現場での地域課題の解決に向けたアプローチ方法やその課題を知ることによって各専門知の活かし方や統合の仕方を学ぶ。さらに、討論やレポートを通して、複雑で解決困難な地域課題の解決に向けて、自らの専門知の活かし方や統合の仕方を発見し開拓することを目指す。

2. 授業の目的(履修目標・到達目標)

- ① 複雑で解決困難な地域課題を、高度な専門性を活かし統合する形で解決する方法を学ぶ。
- ② 講義担当教員は諸地域の第一線で活躍する学内外の専門家。
- ③ 現代的・実践的テーマの学習を通して「知の活用」のトレーニングを行う。
- ④ 副専攻プログラムを構成する関連科目を媒介・統合する要の授業とする。

3. 特長

- ・副専攻プログラム(地域創造)の要となる専門領域を広くカバー。
- ・広い視野で課題を把握する能力を獲得するため、毎年特定テーマを設定。
- ・学際的環境の中で自らの専門性を伸ばせるよう、異なる専門領域との討論を重視。
- ・その一方、最終レポートでは自らの専門を柱に課題解決策を提起。
- ・学外のゲストスピーカーが要所で登壇しハイブリッドな授業を展開。

4. 授業の構成

地域創造学と既往の学問領域のおおよその位置づけを知る

イントロダクション：地域創造学の規範と専門領域との関係、テーマ設定

各専門領域から捉えた地域課題とその解決に向けた多様なアプローチや考え方を知る・探る

各専門領域の教員等による講義

社会科学、自然科学等の各専門分野から、設定された共通の地域課題をテーマに関連する最新の話題を提供。

討論

受講生の現状の各見地から発言、各専門知の存在に気づく。

地域創造に向けた専門知の活かし方に気づく・探る

グループワーク

学生間で学際的なグループをつくり、各自の専門性を活かしながら、地域のビジョンを創造し議論を行う。

最終レポート

自らの専門知や他の専門知を活かして設定課題をどう解くかを論述。

総合討論

最終レポートに基づき互いの専門知の活かし方や接点を探る。

関連科目 一覧

	開講部局	科目名	担当	開講期	単位数
専門型 関連科目	教育学研究科	社会思想論講義Ⅰ	山本(泰)	偶数・春	2
		社会思想論講義Ⅱ	山本(泰)	奇数・春	2
		自然地理学講義Ⅰ	吉田	奇数・春	2
		自然地理学講義Ⅱ	吉田	偶数・春	2
		体育社会学講義Ⅰ	海老原	奇数・春	2
		体育社会学講義Ⅱ	海老原	偶数・春	2
		社会科・公民科教授法講義	重松	奇数・春	2
		社会科・公民科カリキュラム論講義	重松	偶数・春	2
		人文地理学講義Ⅰ	池口	偶数・春	2
	人文地理学講義Ⅱ	池口	奇数・春	2	
	国際社会科学部	国際環境経済論1	氏川	偶数・春	2
		地方財政学1	伊集	奇数・春	2
		農業政策2	池島	秋	2
		公共管理論	小池	秋	2
		現代社会福祉2	相馬	秋	2
		国民会計特論	大森	春	2
		企業環境特論	大江	秋	2
		生産システム特論	松井	秋	2
	工学部	リスクマネジメントのための技術者倫理	高田、他	春	2
		リスク分析論	佐藤	春	2
		マルチエージェントシステム	前田	春	2
		触媒化学	窪田	春	2
		エネルギー変換システム論	麦倉	秋	2
	環境情報学部	技術マネジメント論	周佐、鳴海、志田	春	2
		コンピュータネットワークアーキテクチャ	吉岡	秋	2
		ライフサイクルアセスメントと持続型社会	本藤	春	2
		環境汚染リスクの評価と対策技術	藤江	秋	2
		資源循環・廃棄物リスクマネジメント	亀屋	春	2
		環境リスクマネジメントのための国際社会制度	及川	秋	2
		生活者のための環境リスク情報の評価	大矢	春	2
		イノベーションと環境マネジメント	鳴海	秋	2
	地球環境問題の科学	伊藤	春	2	
都市イノベーション学部	都市居住環境論	高見沢、野原	秋	2	
	持続型集住論	藤岡	奇数・春	2	
	都市基盤と地域開発	中村	春	2	
	地域・都市環境管理論	佐土原	奇数・春	2	
	地域・都市環境計画論	佐土原、吉田	春	2	
	途上地域発展論	小ヶ谷、松本	春	2	
	都市社会と地域	須川、小ヶ谷	秋	2	
	GISによる地域解析概論	佐土原、吉田、古屋	春	2	
実践型 関連科目	教育学研究科	体育社会学演習Ⅰ	海老原	奇数・秋	2
		体育社会学演習Ⅱ	海老原	偶数・秋	2
		地理学野外実習Ⅰ	吉田	奇数・通年(集中)	2
		地理学野外実習Ⅱ	池口	偶数・通年(集中)	2
		社会科・公民科教授法演習	重松	奇数・秋	2
		社会科・公民科カリキュラム論演習	重松	偶数・秋	2
		人文地理学演習Ⅰ	池口	偶数・秋	2
		人文地理学演習Ⅱ	池口	奇数・秋	2
	国際社会科学部	国際環境経済論演習1	氏川	春	2
		地方財政学演習1	伊集	春	2
		農業政策演習1	池島	春	2
		比較公共政策演習	小池	通年	4
	環境情報学部	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会演習※1	本藤	春・秋	2・2
	都市イノベーション学部	環境都市デザインスタジオ	野原、田中、吉田	春	4
		建築理論スタジオ	大野、藤岡、江口	春	4
都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ		中村、他	春	4	
その他	独自に参画する実践性の高い活動※2	---	---	(2)	

※1:1年間の継続履修の他、併せて専門型関連科目「ライフサイクルアセスメントと持続型社会」の履修が求められる。

※2:指定された科目以外に、独自に参画するボランティアや学部生向けの地域交流科目「地域課題実習」のプロジェクトのマネジメント等の実践性の高い活動については、審査の上、独自認定(2単位相当)する。ただし、当副専攻プログラムで認定されたその活動は、各研究科の正規の単位としては認定されませんので、成績証明書には記載されません。

- 専門型関連科目:履修生が在籍する研究科・学部の開講科目である。本専攻の修了要件との重複可とする。単位互換制度の範囲内で運用する。
- 実践型関連科目:履修生が在籍する研究科・学部の開講科目である。本専攻の科目のみ履修可能。

*下記事項を記載した上で、そのコピーを申請・提出してください。

参画登録番号
(センターの方で記載) _____

横浜国立大学大学院 副専攻プログラム

「地域創造科目」

参画登録申請書

副専攻プログラム（地域創造）への参画登録を申請します。

氏名： _____

所属研究科・学府： _____ 研究科・学府

専攻： _____ 専攻

学籍番号： _____

メールアドレス： _____

所属での研究等のテーマ： _____

■履修計画

科目名		履修時期			単位数
必修コア科目	地域創造論	平成	年度	春・秋	
関連科目	専門型	平成	年度	春・秋	
		平成	年度	春・秋	
		平成	年度	春・秋	
		平成	年度	春・秋	
	実践型	平成	年度	春・秋	
		平成	年度	春・秋	
	(独自認定)	活動時期：			

■副専攻プログラム「地域創造科目」の履修にあたっての各自の目標
(注：実践型関連科目で独自認定を希望する場合は、簡単な活動計画案を書いてください。)

■指導教員の承認

平成 年 月 日

上記大学院生の「地域創造科目」への参画登録を承認します。

指導教員： _____ 印